



びびぎ

No. 31

ドラム缶工業会会報

第4回AOSD韓国会議開催さる。

世界13か国から141名の参加者を得て開催されたAOSD(Association of Asia-Oceanic Steel Drum Manufacturers、アジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会)の第4回AOSD慶州(韓国)会議は、4月10日、11日の2日間のセッションで各国の市場動向、技術動向に関する意見交換を行いました。4月11日(水)の閉会式(総会)では、AOSD会則の改訂、勧告・決議が採択されました。会期終了後の4月12日(木)はInsung社(200L缶)、One Jung Can Manufacturing社(ペール缶)及びポスコ社の工場訪問により全ての行事を滞りなく終了し、成功裏に閉幕しました。

第4回AOSD慶州会議の概要を下記の通りご報告致します。

【会議の概要】

(1)会議テーマ:“ アジアにおける鋼製ドラムと共に新世紀へ向けて ”

(New Millennium Together with Steel Drums in Asia)

(2)開催期間:2001年4月9日(月)~12(木)

(3)開催場所:ホテル現代(慶州)

(4)参加者数:13か国141名

(5)会議概要

4月10日(火) AOSD総会(開会式)
セッション(市場動向)

4月11日(水) セッション(技術動向)
AOSD総会(閉会式)



【セッションプログラム概要】

4月10日(火)

市場動向 セッション

10:00-10:20 市場動向 - オーストラリア

Mr.Trevor Armstrong(Grieff Bros.社、シンガポール)

10:20-10:40 市場動向 - インド

Mr.Anand Daya(Balmer Lawrie社、インド)

10:40-11:00 日本に於ける鋼製ドラムとペールの現状と将来 - 角田孝三 日鐵ドラム株専務取締役

市場動向 セッション

11:30-11:50 鋼製ドラム業界は発展し続けるか? - 韓国

Mr.Kyuong Ho Ch(Daesei Industrial社、韓国)

11:50-12:10 ICCR及び日本に於ける更生ドラム缶業界の動向 - 日本 本野克彦(日本ドラム缶更生工業会会長)

12:10-12:30 シンガポール及びマレーシアの鋼製ドラム業界概観 - シンガポール、マレーシア
Mr.Tan Tin Nam(Rheem(Malaysia)社、マレーシア)

市場動向 セッション

14:00-14:20 フィリピンドラム業界は繁栄か滅亡か? -

Mr.Rodolfo A. Padilla(Mindanao Container社、フィリピン)

14:20-14:40 台湾に於ける鋼製ドラム業界の現況 - 王隆興總經理、
Mr.Lung-Hsing Wang(Lung Hsing Industries社、台湾)



4月11日(水)

技術動向 セッションI

09:00-09:30 鋼製ドラム試験のケーススタディ -

Mr.Hong Do Kim(Insung社、韓国)

09:30-10:00 鋼製ドラム業界に影響を与える最近の環境問題 - 菅 克之 鋼管ドラム(株)常務取締役

10:00-10:30 ペールのペロ:過去及び将来 -

Dr.Don-Woo Youm(Dae Ryuk Can社、韓国)

技術動向 セッション

11:00-11:30 環境にやさしいペール缶蓋用新パッキングの開発 - 羽田隆司 大同鉄器株社長

藤沢計夫 福岡パッキング株取締役

11:30-12:00 熱帯地方に於ける鋼製ドラムの表面処理 -

Mr.P.B.Anand Rao(Balmer Lawrie社、インド)

12:00-12:30 POSCOの2000年の業績及び中期戦略 -

Mr.Jae Yeol Kim(Pohang Iron & Steel社、韓国)

内容物を充填したドラム缶はアジア各国をはじめ、世界中に流通している国際商品であるため、ドラム缶工業会は、このような国際交流を通じて規格の国際標準化、試験方法の統一など世界各国の情報・動きを出来るだけ早く収集し、また世界中の同業者との交流を深めることにより、常にドラム缶の品質向上に取り組んでおります。

関係各位のより一層の御支援をお願い致します。

平成12年度缶種別・用途別出荷実績および平成13年度缶種別需要見通し

缶種	本数 (千本)	前年度比 (%)	平成12年度実績					平成13年度見通し			
			用途別(本数)					トン数	本数 (千本)	前年度比 (%)	トン数
			石油	化学	塗料	食料品	その他				
200L缶	12,849	103.5	(100.5) 2,033	(104.1) 9,629	(99.5) 621	(125.1) 215	(100.3) 351	303,905	12,715	99.0	300,969
ペール缶	24,775	99.4	(99.1) 12,407	(98.8) 10,802	(100.2) 759		(112.1) 806	40,153	24,700	99.7	40,031
中小型缶	1,113	98.2	56	980	21	1	56	7,183	1,135	100.7	7,382
亜鉛鉄板缶	315	98.4	微	302	1	1	11	3,288	315	100.0	3,374
ステンレス缶	38	118.8		37			微	960	43	113.0	1,036
合計	39,090	100.7	14,496	21,750	1,402	217	1,224	355,489	38,908	99.5	352,792
前年度比(%)		100.7	100.4	103.2	100.5	122.9	102.6	102.8			100.1
構成比(%)			19.1	71.8	4.6	1.5	3.0	100.0			

(注)1.用途別200L、ペール缶の上段()は前年度比。2.前年度比、構成比はトン数ベース。

品種別出荷推移 本数

(単位:千本)

缶種	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度 見通し
200L缶	11,189	11,814	11,636	12,142	12,454	11,380	12,419	12,849	12,715
ペール缶	24,805	25,539	25,474	25,711	25,662	24,079	24,928	24,775	24,700
中小型缶	1,336	1,185	1,201	1,186	1,197	1,042	1,134	1,113	1,135
亜鉛鉄板缶	341	324	318	357	336	337	320	315	315
ステンレス缶	37	26	21	23	22	29	32	38	43
合計	37,708	38,888	38,650	39,419	39,671	36,867	38,833	39,090	38,908

(平成12年度出荷実績)

200L缶の出荷は平成13年1月まで各月前年同月を上回り、2月に入り前年同月を下回ったものの、2月、3月共100万本を超え、平成12年度として12,849千本に達し、対前年度比3.5%の増加となりました。平成11年3月以来23ヶ月にわたり対前年を上回ったこととなります。この量は平成2年、パプルの絶頂期(12,968千本)に次ぐ量となっています。

石油分野及び塗料分野の需要は横這いでありましたが、総需要の75%を占める化学分野が4.1%増加したことによりです。

化学産業の活動水準を示しますエチレン生産は平成11年度に過去最高となり、平成12年度には2%の減少をみましたが、これは下期に入り米国、アジアの景気が減速し、輸出が減少した為で、一方の内需は底堅く推移し、直近減少傾向が出始めているものの、ドラム缶需要の伸びに繋がったものと思われる。

中小型缶は容器の大型化の影響もあって、主需要部門である化学産業の好調にもかかわらず減少しました。ステンレス缶は絶対量が小さいものの、最近、増加の傾向にあります。これは内容物の変化(塗料の水性化)と需要家の環境配慮によるところと思われる。

ペール缶は一部プラスチックペールからスチールペールへの切替があったにもかかわらず、24,775千本と対前年度比0.6%減となりました。総需要の50%を占める石油分野と44%を占める化学分野が漸次減少傾向にあり、その他分野のファンシー缶がわずかながら増加しています。

(平成13年度需要見通し)

米国、アジアの景気後退の影響を受け、輸出は鈍化する中で、国内景気においても、個人消費の低迷、設備投資の抑制が続いており、上期には需要回復は見込まれず、むしろ減少するものの、下期には回復する事を見込み、総需要は対12年度比微減にとどまると予想されます。

200L缶については、対前年度比1%減を予想しています。需要分野別として、石油分野では景気の低迷と需要家の物流合理化に伴い微減、化学分野では間接輸出の減少で微減すると思われます。

中小型缶も基本は変わりませんが、容器の大型化変更も落ち着きつつあり、対前年度比概ね横這いと想定しました。

ペール缶は、需要家の物流合理化がまだ進行中で、石油、化学、両分野共微減になると予想しています。

業界の動向

会員の動向:会員1社廃業

ドラム缶工業会設立以来の正会員である秋田ドラム工業株式会社(本社:秋田市)は、本年4月25日をもって工場を閉鎖することになりました。従って同社の脱退により工業会の正会員数は1社減り、16社となりました。

非会員の動向:外資系ドラム缶メーカー、日本バンリアー社、4月で生産・販売停止

世界最大の容器メーカー、オランダ、バンリアー社の日本法人である日本バンリアー社は98年秋から三重県藤原町の工場ドラム缶の生産を開始していましたが、4月20日付でドラム缶の生産・販売を停止しました。操業開始後2年半での停止となります。

(注)バンリアー社は今年2月に米国のドラム缶大手、グライフ・ブラザーズ社に売却されています。

ユーザー訪問

関西ペイント様 平塚工場



関西ペイント様 平塚工場概要
所在地 神奈川県平塚市八幡5-4-1
設立 1960年(昭和35年)11月15日
従業員数 244名
敷地面積 52,000㎡ 建物面積 27,000㎡
生産能力 塗料6,500 t/月 合成樹脂ワニス4,300 t/月



工場長 糸原 哲男さん

今号から新企画「ユーザー訪問」がスタートしました。
ユーザーサイドは、常にドラム缶をどうとらえているかなどをテーマに取材しました。
トップバッターは、関西ペイント様 平塚工場をお訪ねしました。

はじめに、平塚工場の特徴(特徴)からお伺いします。

最早、一工場の特徴というものはありません。当工場の環境基本方針や環境方針をお話することでご理解いただけると思います。ここでの基本方針は従業員各自、組織の個々が「レスポンシブル・ケア」活動に、自主的・継続的に取り組み「地球環境に健全であり続ける工場」の実現を目指しています。

「レスポンシブル・ケア」活動とは、どのような活動ですか。

当社は塗料メーカーで、化学製品を扱う会社です。化学製品を扱う各企業が、環境・安全・健康はもちろん、品質を含めこれらすべてに責任ある自主的な行動を取ることが優先される時代です。こうしたバックグラウンドを踏まえて世界の化学工業界は、化学物質の開発から廃棄にいたる過程で、自主的な環境・安全・健康等の対策を始めたわけですが。当社は1995年に実施を宣言しました。この活動を称して「レスポンシブル・ケア」と呼んでいます。一つのグローバルスタンダードと言ってもいいでしょう。

「環境の世紀」といわれる21世紀に貴工場の環境対策はどのように取り組んでいますか。

先程の基本方針を通して、三つの柱があります。

一つは、塗料は化学製品であることを認識して、常に環境への影響を予測・評価しながら、環境改善のため目的・目標を定めています。また定期的に見直しを行って、継続的な維持改善と汚染防止に全員参加で取り組んでいます。

二つ目は、当社の技術力を駆使して省資源・再資源化・省エネルギー・廃棄物削減を行っています。

三つ目は、ここ平塚は、環境共生都市と呼ばれています。ですからここでの事業活動は、環境に関する法規制や地域協定等の同意事項を遵守徹底しています。

「ISO 14001」認証取得への取り組みについてお聞かせください。

当社には全国で5工場ありまして、全て取得しました。最初の認証取得は鹿沼工場で1998年の10月です。次にここ平塚工場で1999年3月になります。

将来にわたって環境改善活動は推進していかなばなりません。その基盤となる環境マネジメントの構築を強力に進めている次第です。あわせて「ISO 9001」の品質保証も国際的な責任であるわけです。各工場の共通のテーマですので競い合っています。

メーカーとして、物流コストは大きな問題ですが物流対策はどのように.....。

物流コストは、工内(工場内)とユーザー向けの工外(工場外)の二つがあって、大きな問題です。これをどう削減していくかについては、ITを活用し行っています。情報プラス最適化。情報をインプットしてそれを最適化してサプライチェーンマネジメント的な取り組みを、ここ2~3年やっています。来年4月からはオンラインする予定です。トータル物流コストを考えますと、やはり情報の集約化が必要になります。一工場で解決するのではなく、全社的なプロジェクトチームの活動が必要になります。それに平塚工場も来年から乗っていきます。

具体策はありますか。

物流のトータルコストを考えると、個別の手段としては、共通化とか、合併会社を作るとか、また競争会社でも協力して同じトラックで運ぶとか、お互いの物流拠点を利用しあうとか.....。当然将来的にはその方向にならないとコスト削減につながらないと思いますが.....。

現在、主にどのような容器をご使用しておりますか。

ドラム缶は、川鉄ドラム、日鉄ドラムなどで購入しております。ドラム缶はユーザーごとの使い勝手にいろいろな種類を使っています。しかし当社の充填の使い勝手もありまして.....話し合いで決めています。主に新缶のオーブドラムですね。もう一つは小口ドラム。これはお客様のところでチャージするものですね。

再生缶のご使用はいかがですか。

新缶しか使わない塗料と、再生缶でも大丈夫ということと区別して、お客様のニーズに合わせています。主に建築関係ですと再生缶を使う場合が多いですね。再生缶にはゴミ・ブツなど技術的な問題がありますので、そういうことを加味して判断しております。

他の容器と比べドラム缶の位置付けについて。

石油缶(一斗缶)、小口缶、ドラム缶、その上ですと1トンコンテナ、さらに上のローリー車です。これらが流通で使う主な容器ですが、中でもドラム缶が一番多いと思います。容量が多いほどキロ当りコストは安



くなるので、当然上へと向かうわけです。少量のものは少なくなりますが、ドラム缶が無くなることはないと思います。使い勝手のベストポジションだと思います。

容器の品質管理のチェックはどのように.....。

現在は鉄製ですが、将来はステンレスという話もあります。コストの問題がありますが.....と申しますのは特に最近では、自動車用塗料では塗装するときにゴミ・ブツが非常に大きな問題になります。自動車メーカーは、そのつど磨いたり補修するのを嫌

います。従って「塗料のゴミ・ブツを無くせ」という至上命令があります。対処するため、塗料をろ過する、充填、ファイリングの環境、製造の環境を整えるということがあります。

一方で、「ブツの80%以上は容器にあり」といわれ、容器のゴミ取りにも目を向け、各社メーカーにお願いしています。一般的に容器の品質を左右するのは「ゴミ・ブツの量」です。それを少なくする、又はそのレベルを保持するというのが品質管理の要だと思います。

ドラム缶の製造工程において、一つは原板でいかにゴミを除くか、組み立て時の環境はどうかなど、品質管理ということをお互いに相談しながらやっていますが.....。

「環境にやさしい」重金属フリーへの取り組みや、新「ドラム缶標準カラーサンプル14色」についてご意見などお聞

かせください。

重金属フリーというのは、当然環境への関心や配慮から生じたと思いますので良いことだと思います。色数の14色は、当社のメンバーも関わっていると思いますが、エンドユーザーに聞いていた



だいたほうが...(笑)

カラーサンプル見本帳は届いていなかった。

最後に「ドラム缶工業会」へのご意見・ご要望など.....。

先程話しました「ゴミ・ブツ」の取り組みをぜひお願いします。塗料メーカーからの一番大きな問題です。そして流通経路でのトラブル。納品時の取り扱い方によるドラム缶の変形など。これも一つの品質ということです。後は塗料をたくさん使ってもらいたいものです。(笑)

どうも長い間、ありがとうございました。

「ドラム缶」から「コラム感」



その1

初代広報委員長 相川 裕道

この度、当会報の誌面を一新することになり、某氏の指名で年3回の当「コラム」を担当して欲しいとの依頼が舞い込んだ。理由は当誌創刊の責任者であったからとの事で、知識も文才も無い私にお鉢がまわって来た。

ドラム缶工業会として広報活動を全くしていなかった当時、何を何処へどのようにして広報するか?を模索していた。カネをかけずという命題はある。

ドラム缶は、映画などでは戦争の最前線、ならず者の波止場の銃撃戦、汚物の廃棄用等々マイナスイメージばかり。これを払拭すべくイメージアップを図れと、Tシャツをつくる、ドラム缶バンドのコンサートの後援をする、子供に工場見学をさせる等もあったが、プロメディアには乗れない。

ドラム缶というものは、それ自体ではマーケットを形成できる

ものではなく、ユーザーである顧客のマーケットに流通する入れモノである。従って広報の対象もユーザーである顧客とすれば範囲は限られてくる。そこで広報誌を発行しアピールすることとした。

誌面作りにあたっては、倣った物言いもできず、唯々お願い基調の当会発信の一方通行とならざるを得ない。それだけでは飽きられて見向きもしてくれなくなるだろう。風を入れるスキ間を空けてコーヒブレイクだかティーブレイクとして息を入れて頂く「コラム」でドラム缶から目をそらせて頂きたいとの願望から割り込ませたものでした。

創刊号から前号(30号)までの「コラム」を読み返してみた。私の拙文も4本あったが、短文・長文、なかなか味のあるコラムであったと感じた。が、はたしてお得意様である読者はどうだったのでしょうか?当会員に対しての反響はあったのだろうか?

6年ぶりに筆を執ることとなり、ドラム缶...ドラム缶...と押しつけがましい記事の合間にホッとするブレイクになるかどうか?

次号以降、カラッ茶ブレイクにならないよう努力してみます。

「ひびき」 ReNewal

ドラム缶会報誌「ひびき」が、この度リニューアルいたしました。最新号をお楽しみください。

はじめに

「ひびき」は、平成4年6月に発刊され、お陰さまをもちまして前号で一区切りの30号となりました。これも偏に、読者の皆様のご支援の賜と感謝しております。

さて、最新号の31号からは、装いを新たに出発をいたします。これからも今まで以上に、読者の皆さまのご期待にお応えできますよう、編集委員一同気持ちを引き締め取り組んでまいります。何卒、より一層のご支援の程よろしく願いいたします。

リニューアルにあたって

第一期(1号～30号)の会報誌編集の役割は、主に会員相互のコミュニケーション活動でした。新世紀を迎え、情報のグローバル化にともない、広く各界(企業・団体・自治体・マスコミ・学生等)にも発信する誌面づくりの必要性が生まれ、リニューアル推進となった次第です。

新編集企画内容について

新しいコンセプトの基、編集企画、デザイン、ホームページとの連動等を構築し、新世紀にふさわしい誌面づくりを目指してまいります。

具体的内容

- 一、新世紀に向けたドラム缶工業会の活動を積極的にPRします。
- 一、ユーザー、会員各社、関係団体等との意見や情報を開示し反映させてまいります。
- 一、地球との共生ともいえる環境・省エネ等の対策姿勢をアピールします。
- 一、「ひびき」誌面とホームページとをリンクさせ、スピーディーな情報相互補完体制づくりを目指してまいります。

今後共、「ひびき」の大きな共鳴にご期待ください。

「ひびき」創刊号



「ひびき」31号

工業会のホームページ本格稼働。
ぜひアクセスを。

<http://www.jsda.gr.jp>



30号でもご紹介しましたが、「ドラム缶工業会」の活動について、広く多くの方々にご理解を深めていただきたく、ホームページをオープンしています。

ドラム缶の歴史、基礎知識、生産高、ユニークな活用法、さらに関連団体へのリンク等の情報がリアルタイムで満載です。

準備が出来しだい、この「ひびき」リニューアル版モカラーのPDFファイルでスタートの予定です。

この機会に、ぜひ一度といわず何度でもアクセスしてください。一般の方々にも解りやすく興味・関心が高まること請け合いです。では、ホームページでお会いしましょう。

[主なコンテンツ]

1. 「ドラム缶は環境の優等生」
環境保全への貢献
2. 「ドラム缶の歴史とエピソード」
3. 「ドラム缶のABC」
4. 「こんなところにドラム缶」
ドラム缶のユニーク活用法ー

ホームページに対するご意見・ご感想など事務局へ。
FAX・E-mail お待ちしております。

21世紀はエキサイティング

野球少年・キリスト教・修猷館・水上スキー・ジャズ・漱石・そして謙虚などのキーワードを繋げていくと...

川鉄コンテナ
取締役社長
近藤 徹さん



— 故郷は。

千葉(生まれ)と福岡・博多(育ち)の2つになるかなァー。千葉の集まりでは、地元の顔になり、九州の会合では、故郷のように振舞っています(笑)。

— 少年時代はどのような過ごし方を。

野球少年でした。一方で、グライダーや電気自動車など作って展示会で入賞しました。家が電気関係の仕事なので、自宅が工作室みたいなものでしたから(笑)

— 学生時代の思い出は。

大学時代より中・高校時代の方が思い出が多いですね。中学はクリスチャン系です。ここでは日曜礼拝や聖書にも親しみました。

高校は修猷館です。この学校は江戸時代から200年以上の歴史と伝統を引き継ぐ学校で、明治期は修猷館英語中学校と称していました。卒業生には古くは養生訓で知られる貝原益軒、近年では広田弘毅、緒方竹虎、最近では自民党幹事長の山崎拓氏などがいます。校則がない自由な校風で文武両道で、一言でいうとスマートな学校でした。例えば先生の家に泊まって、翌朝そのまま教室へ出席しても決しておこられなかったですよ。教師と生徒の信頼関係があったですね。

— ご趣味は。

川鉄時代にモーターボートをつくり、水上スキーを楽しみましたよ。同世代の石原裕次郎にまけてなるものかと思ってね(笑)。

音楽ではいろいろ好きですがジャズも好きです。

— 最近読んで印象に残った本は。

夏目漱石の「こころ」は何回読んででも新鮮です。司馬遼太郎の「街道を行く」なども読んでいましたよ。文章は艶がないとね。

私は新聞好きで7紙読んでいます。

— 21世紀のイメージを一言で。

エキサイティングな世紀になると思う。自主性と自己責任が問われ、「個」の働きが尊重される時代が来ると思う。

— 最後にモットーをお願いします。

絶えざる向上心を燃やし続けること。謙虚の「謙」を大事にしている。

「誠意」こそ人間関係の基

協和容器株式会社
代表取締役社長
下村 隆良さん



経歴は昭和37年にNKKに入社し、30年間に渡って技術者として薄板の研究一筋を歩む。鋼管ドラムで7年間を過ごし、子会社である協和容器(株)に7代目社長として迎えられた下村社長、本社新潟へは単身赴任中。

— 単身赴任中のご不便は。

結婚以来、初めての単身生活ですが、新鮮さを味わいながら見聞を広めています。休日は、同好者をさそって温泉めぐりです。下越だけで日帰り温泉が30数ヶ所もありますので、飽きることはありません。

それにここ新潟は酒、魚、米が美味しく食の楽しみは最高ですね。毎日飲み過ぎに注意といった所です。

— ご出身は久留米市ですね。

生まれは福岡県の久留米市ですが、育ちは山口県の下松市です。この地での特に鮮明な記憶は、小学校1年の昭和20年8月14日に、B29爆撃機の編隊が隣接する徳山の燃料所を爆撃し、真夜中の空が夕焼け以上に赤々と燃えて…。その翌日に終戦になるとは、思いの外でした。一夜で歴史が動いたわけですから…。

— ご趣味は多い方ですか。

G(ゴルフ)&M(マージャン)を5年以上続けています。運動不足解消と老後のボケ防止に。年々充実感と必要性が増えてきています。転ばぬ先の…ですかね。

— 最近読んだ本で、若い社員にオススメ本がありましたら。

ソニー名誉会長の井深 大さんの「わが友 本田 宗一郎」。物づくりに携わるものとして印象に残る一冊ですね。でも私は新聞派です。地元の「新潟日報」と全国紙「日本経済新聞」、そして業界紙「鉄鋼新聞」の3紙です。情報収集には新聞が何よりですね。

— 21世紀のイメージはどんなものでしょう。

間違いなく高齢化と情報化の社会となるでしょう。これにいかに対応していくかが課題でしょう。

— 最後にモットーをお願いします。

強いてあげれば「誠意」ですね。人間関係の基ですから。

会 員

川鉄コンテナ(株) 協和容器(株) 鋼管ドラム(株) 斎藤ドラム缶工業(株) 山陽ドラム缶工業(株) 新邦工業(株)
ダイカン(株) 大同鉄器(株) (株)東京ドラム罐製作所 東邦シートフレーム(株) (株)長尾製缶所 日鐵ドラム(株)
(株)前田製作所 森島金属工業(株) (株)山本工作所 (株)ユニコン

《賛助会員》

エノモト工業(株) 三恵マツオ工業(株) 丹南工業(株) (株)大和鐵工所 三喜プレス工業(株) (株)城内製作所
東邦工板(株) (株)水上工作所

ドラム缶工業会 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 (鉄鋼会館3階)

TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969

e-mail: drum.pail@jsda.gr.jp

ひびき

No.31(平成13年6月5日発行)

発行人 ドラム缶工業会

事務局長 藤野 泰弘

本誌は再生紙を使用しています。